

薬事ニュース

創刊：昭和二十六年六月二十三日
発行：毎月二十三日

発行所 株式会社薬事ニュース社
本社 東京都千代田区神田猿樂町2-2-3 NSビル2階
電話 東京 03 (3295) 5461 番代表
支社 大阪市中央区伏見町3-2-8 港芳ビル
電話 大阪 06 (6231) 7328 番代表
振替貯金口座 00970-7-34691 番

(1) 2018年(平成30年) 2月23日 第4347号 (昭和26年3月5日第三種郵便物認可) (毎週全曜日発行)

「薬局はセルフMの推進で地域貢献を」

厚労省・中井機器課長

厚生労働省医薬・生活衛生局医療機器審査管理課の中井清人課長に写真。2月18日、都内で開催された保険薬局経営者連合会の「薬経連スプリングフォーラム」で講演し、地域包括ケアシステムの中で薬局・薬剤師が果たすべき役割について見解を示した。「セルフメディケーション」の推進と、「かかりつけ医」と連携した「かかり



つけ薬剤師」の服薬管理を掲げ、「この2つによって薬剤師は薬の専門家となり、約2兆円規模にまで膨れ上がった調剤技術料の

価値を説明できる」と語った。特に「セルフメディケーション」の推進を巡っては、OTC薬や健康食品などの供給を通じ、地域住民が健康相談などで第一に訪れる、いわゆる「ファーストアクセス」機能を構築して、地域で「顔の見える」薬剤師になる必要性を指摘。その上で、薬

局にあまりOTC薬が置かれていない現状を憂慮し、「OTC薬を置かないで本当に『かかりつけ薬局』になれるのか。登録販売者に任せる気がないのであれば、きちんとOTC薬を扱うべき。地域住民の健康支援の担い手になるために、OTC薬は重要なツールだと主張した。「かかりつけ医」と連携した服薬管理については、

「薬剤師が行う薬学的管理で服薬指導が本来に主要部分なのか。医薬品を渡す前よりも渡した後に、どのように医師と連携してフォローしていくか。それを考えることが最も重要だ」との見解を提示。「かかりつけ薬剤師」が「かかりつけ医」と連携して服薬管理を行うことで、薬剤師による「薬学的管理」を確立する必要性を説いた。

調剤報酬にも触れ、「かかりつけ薬剤師指導料」発展・育成▽「対物」から「対人」業務への現実的な転換▽医師と連携した患者の服薬情報の継続的・二元的管理▽処方せん集中率の低減▽多剤・重複投薬の適正化と残薬解消▽後発医薬品の推進——などを論点に掲げた。このうち、処方せん集中率に関しては「集中率の高い『門前薬局』が多い現状は異常だと思ふ」と述べ、セルフメディケーションの支援や、「かかりつけ医」と連携した服薬管理などを通じ、「良い意味」で患者を抱え込むことが、集中率の低下に繋がる」との見方を示した。